

K師の重賞本命と見解 『オーシャン・チューリップ』

チューリップ賞

ノーザンダンサー系の強い配合。

なかでもダンチヒ系に相性がよく、昨年もダンチヒ持ちが 1-3 着を独占。

父と母父がサンデー系とノーザンダンサー系の組み合わせも好相性。

本命はナミュール。

父はダンチヒ系のハービンジャー。

今年の世代のノーザンファーム生産の
ハービンジャー産駒は今まで以上。

母父はサンデー系のダイワメジャー。

昨年の勝ち馬もハービンジャーとサンデー系の組み合わせ。

ダイワメジャーも当レースで複数の実績。

前走芝 1600m 重賞で上がり最速も当レースに相性の良い戦歴。

それ以前に、前走はこれ以上悪くは乗れない最悪の競馬。
普通に巻き返すでしょう。

上位人気ではサークルオブライフも消しにくいのですが、
相手妙味はジャマン、ラリュエル、ルージュスティリア。

いずれも G1 血統で底を見せていない馬。

どれかかが上昇すれば、馬券圏内に食い込むことはできそう。

ウォータナビレラは父、母系からも根幹距離のこの舞台で前走以上の上積みは厳しいのでは。

前走と同程度のパフォーマンスだと底を見せていない馬に上昇されると馬券圏外も。

オーシャンステークス

昨年は 2 桁人気のディープ産駒が勝ち、3 着もディープ系。

昨年以降の同コース特別戦もディープ系の単勝、複勝回収率が優秀なように、サンデー系が走りやすくなっています。

本命はダディーズビビッド。

父はディープ系のキズナ。
近親には当コースの G1 勝ち馬スリープレスナイト。
アドマイヤムーン、エフフォーリアも同牝系。

スピード能力高く、中山の大舞台実績も十分な名牝系。

当レースに相性の良い大型馬。

休み明け激走後は、必ず反動が出る馬で、前走は型通りに反動が出て凡走。

凡走後の叩き 3 戦目は初めてですが、普通に能力発揮できれば、勝ち負けできる可能性の高い舞台、メンバー。

初パターンのローテの可能性に託す価値はあるオッズと判断。
相手本線もディープ産駒のスマートクラージュ。